

1 はじめに

「晴れの国」岡山県の西北端、県下三大河川のひとつ高梁川の源流域に位置する新見市は、北は鳥取県日野郡、西は広島県庄原市と県境を接し、793.27km²ある面積のほとんどを山林・農地が占める静かな山間の都市です。従来、豊富な石灰石を原料とした鋳工業が産業の中心を担ってきましたが、近年、農水産業分野で独特の風土に育まれたA級食材が注目されており、黒毛和牛のルーツと言われる千屋牛肉、ピオーネ（葡萄）・桃などの果物類、地酒に加え、最近ではチョウザメ（卵は世界三大珍味のキャビア）、地元産ワイン等が新聞・テレビで紹介され話題になっています。

このようなかけがえのないふるさと新見を災害から守る新見市消防団は、1本部9分団で構成され団員数1,229名（平成23年11月1日現在）の体制で昼夜を問わず活動しています。

2 出前講座開講の経緯

このたび岡山県消防協会の事業である『「おかやまの消防団」いきいき出前講座』を開講いたしました。団員の大半を元気の良い働き盛りの中高年に支えられている本消防団ですが、例外なく高齢化という課題に直面しております。そのことに対応する手段として若年層の入団を促進していくには、将来、地域における防災活動を担うことと

なる中高生に、学生時代から消防団活動の理解を深めてもらうことが必要であるとして、この事業が県下3地区（備前、美作、備中）の消防連絡協議会で実施されるものです。

今年是新見市が備中地区の担当ということで取り組むことになった訳ですが、新見市においては、平成23年4月24日に災害時にヘリポートや避難所として使用できる新見市防災公園が新見市石蟹地区にオープンし、そこに隣接する新見南中学校を実施候補地案とし、内容については当地を管轄する中部分団に委ねることが年度当初の消防団幹部会議でほぼ必然的に決まりました。市教委及び中学校に打診したところ快諾をいただき、その後中学校との協議の結果、実施は平成23年10月4日（火）午後に行われる、学校の年間行事である避難訓練時限中ということになりました。以下にその概要をお知らせします。

3 出前講座当日

絶好の秋晴れの下、団員27名が2列横隊で集合しました。「集まれ」「気をつけ」「右へならえ」「整列休め」等の号令や規律正しい動きに、避難訓練を終え集合して見守っていた先生方や生徒達は、圧倒されたのかやや緊張した様子でした。

その場で消防団の活動について説明を行った後一旦解散し、引き続き生徒達に次のことを体験し



てもらいました。体験する生徒は予め12名ずつに決まっており、体操服で参加していました。

4 体験メニュー

(1) 二重巻きホースの延長

団員が手本を見せた後、生徒を3人ずつ4つの組に分け1組ずつ順次行いました。力不足なのか緊張してなのか半分からいしか延ばせない生徒が多かったですが、最終組になると目で見て学習してコツが分かってきたのか、上手く延ばせる生徒も居り、団員からの褒め言葉が飛びかかっていました。また、予定外のことでしたが、先生方からも3人参加していただきました。その実技は、周囲からの拍手喝采の大うけという予想どおりの結果に終わり、先生方曰く「なかなか上手いかず、難しいです。」ということでしたが、おかげで会場の雰囲気もリラックスムードになってきました。

(2) ジェットシューターを背負っての消火

標的のバケツに向けて放水してもらい、水囊



二重巻きホースの延長

の重さ、水を押し出す時の腕の疲労感を感じてもらいました。参加した中学生たちには肉体的に厳しい作業でしたが、初めての体験にとっても楽しそうでした。

(3) 消防操法の見学

小型ポンプによる水出し操法を見学してもらいました。節度正しく、しかも流れるような番員の動きには、皆、感動し歓声を上げていました。

(4) ポンプ車からの放水訓練

最後に、学校の横を流れる高梁川の水をポンプ車で揚水し、2線延長による放水を体験してもらいました。中学生たちも本番さながらに、ヘルメット、防火衣等を着用して筒先を握り、放水圧力を体で感じることで、今までにない緊張感を味わえた様子でした。

以上、数十分という短い時間でありましたが、コンパクトな内容で精一杯のものを提供できたと



がんばってホース延長



ジェットシューター体験



バケツをねらって放水

思っております。閉会にあたり、学校の先生方からは「すごく良い体験ができ、有意義な時間が過ごせた。また来てほしい。」生徒からは「仕事を持ちながらボランティアで活動していることはすごいと思う。いろいろ体験ができて消防団のことが少しは分かった。大人になったら地元に残り消防団に入りたい。ありがとうございました。」との言葉をいただきました。

彼らの言葉を、我々はこの講座の目的を達成することができる可能性を示すものとしてとらえています。例えば全く無関心だった生徒がこの体験を通して心を動かし消防団に興味を持ったとした

ならば、それは大きな効果であると思うのです。

5 おわりに

『「おかやまの消防団」いきいき出前講座』として行ったこの啓発活動は有効だった。

それがこのたびの事業実施で出た答えです。将来、一人でも多くの若手消防団員が誕生することによって本市消防団が活性化され、地域防災の要としてますます市民の信頼を得るために、少子化に伴う若年層の減少という現実と常に向き合いながら、今後も地道に有効な啓発活動を続けてまいりたいと思っております。



ポンプ車からの放水訓練



貴重な体験となりました